

第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会会議録

日 時：令和2年7月6日（月） 午前10時～11時40分

会 場：浜松市役所本庁8階 第3委員会室

出席委員：伊豆裕一会長、太田順子副会長、石塚良明委員、倉橋千弘委員、趙驕陽委員、松井章子委員、諸井宏司委員、安田育代委員、吉林久委員

欠席委員：鈴木里枝子委員

事務局：奥家章夫市民部長、新谷直幸UD・男女共同参画課長、河合多恵子課長補佐、森下昌和UD推進グループ長、森田毅彦共同参画グループ長、井原卓巳

傍聴者：なし ※報道関係者2名

会議録作成者：UD・男女共同参画課 井原

記録方法：発言者の要点記録（録音の有無：有）

〈会議次第〉

1 開 会

2 委員委嘱

3 委員自己紹介

4 部長あいさつ

5 職員紹介

6 会長あいさつ

7 議 事

（1）令和2年度主要事業計画について

（2）第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅡ）
第2期推進計画進捗状況について

8 その他

（1）八幡駅周辺バリアフリー基本構想について

（2）UDトークの活用事例について

9 閉 会

〈配付資料〉

（資料1）ユニバーサルデザインの取組（令和3年度まで）

（資料2）令和2年度主要事業計画

（資料3）第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅡ）
第2期推進計画進捗状況【総括表】

（資料4）第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画（U・優プランⅡ）
第2期推進計画進捗状況【事業別】

（資料5）八幡駅周辺バリアフリー基本構想について（経過報告）

（資料6）市長記者会見のライブ中継及び字幕配信について

《会議の経過》

1 開 会

(事務局)

第1回浜松市ユニバーサルデザイン審議会を開催する。

当審議会は、浜松市ユニバーサルデザイン条例第18条に基づき、浜松市ユニバーサルデザインの推進に関する調査、協議および評価をする組織として設置されているものである。本日は鈴木委員が都合により欠席である。

2 委員委嘱

奥家市民部長より石塚委員、倉橋委員に委嘱書を交付

3 委員自己紹介

石塚委員、倉橋委員自己紹介

4 部長挨拶

奥家市民部長挨拶

5 職員紹介

UD・男女共同参画課職員自己紹介

6 会長あいさつ

伊豆会長挨拶

7 議事

(事務局)

当審議会は、「浜松市附属機関等の会議の公開に関する要綱」に基づき、公開会議とする。また会議録は事務局で作成し、「浜松市附属機関等の会議録の作成および公開に関する要綱」に基づき、発言した委員の名前を記載の上、公開することとする。

議事の進行については、浜松市ユニバーサルデザイン審議会運営要綱第4条の規定により議長は会長が務めるとされているため会長にお願いしたい。

(1) 令和2年度主要事業計画について

事務局より

(資料1) ユニバーサルデザインの取組 (令和3年度まで)

(資料2) 令和2年度主要事業計画

について説明

(伊豆会長)

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

(吉林委員)

まず、企業のUD出前講座について、ユニバーサルデザインの概念の裏付けとして、実感を沸かせるためにとっても良い事業であると考えます。しかし、8社の業種が製造業に偏っているため、今後、医療、金融、水産、農業等、幅広く実施していただければと思う。

次に、UD週間の中で触れられている点字について、様々な場所に存在するが、私は読むことができない。手話教室のように、点字の勉強会等簡単なレベルでも点字の普及に関する講座があればよいと思う。

最後に、第3次ユニバーサルデザイン計画策定にかかる意識調査について、対象は市民2,500人、市内事業者500社とあるがどのように選ぶのか。男女比などが偏ると困る。

(事務局)

1点目の企業のUD出前講座の業種について、やはりユニバーサルデザインという製造業に偏りがちである。ただ、今年度からガスのサーラエナジー株式会社が加わったように今後も金融機関やサービス業等を増やしていきたい。

2点目の点字について、自分の名刺にも点字があるが読めない。少しでも書いてあることが分かるとUDの普及・啓発に繋がると思うため、当課で点字の推進が可能かどうかは検討が必要だが、例えば、障害保健福祉課等の福祉部局と連携して、点字の普及・啓発について取り組めるよう調整したい。なお、点字の講座については、既に図書館等で実施しているため、改めて紹介させていただく。

3点目の意識調査の対象人数について、浜松市の人口約80万人に対して統計的に必要な数を確認した結果、市民2,500人、事業者500社程度あれば問題ないとのことだった。市民2,500人については住民基本台帳から無作為抽出する。無作為抽出であれば、性別等の属性に偏りはでないと考えているが、結果として偏りがあった場合は調整させていただく。

(2) 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・優プランⅡ)

第2期推進計画進捗状況について

事務局より

(資料3) 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・優プランⅡ)
第2期推進計画進捗状況【総括表】

(資料4) 第2次浜松市ユニバーサルデザイン計画 (U・優プランⅡ)
第2期推進計画進捗状況【事業別】

について説明

(伊豆会長)

事務局からの説明について、質問や感想等があればお願いしたい。

(松井委員)

全般的に見たときに、実施内容が細かく記載されている事業と単に数字のみが記載されている事業があるが、やはり内容を知りたいため、詳しく記載していただきたい。達成率が増加している「No. 24 女性就労支援事業」等については、とても細かく記載しており、女性就労に対する世間の意識の高さがうかがえた。

実績が下がっているものについては、事業のPR方法について教えていただきたい。

(事務局)

実績の記載の方法については、事業の内容等が分かりやすくなるよう改めていきたい。

また、女性支援事業について、当課ではユニバーサルデザインのほか、男女共同参画の推進も掲げており、その拠点となる「あいホール」等で様々な事業を行っているが、その中でも意識の高まりを感じているため、引き続き取り組んでいきたい。

実績が下がっている事業のPRについては、当課以外にも庁内の様々な課で講座や事業等を実施しているため、当該事業の担当課に低下の要因について照会をしているが、多くの課が「PR方法や予算額等を変更しておらず、要因が分からない」と回答している。例えば、「No. 3 福祉体験講座」を見てみると受講者数が平成30年度1,277人から令和元年度660人と半減しているが、障害保健福祉課の担当者に理由を聞いても分からないとのことだった。それでは答えにならないため、当課で要因について調査してみると、昨年度、市内5つの大学で構成される「オリパラ教育浜松市内大学連携協議会」が小・中学校に対して、ボッチャや車いすラグビーの体験等の教育事業を行っており、少なくとも2,756人が参加している。このように一見数値が減少し、評価が下がっていても、詳しく中身を見てみると似たような事業を行っており、実際の実績としては向上している場合もあるため、指標の在り方や報告の仕方を検討する必要がある。次期計画策定の際は、庁内の各課と連携していくこととなるが、そういった点の意識付けや意識の変革にも取り組んでいきたいと考えている。

(趙委員)

「No. 8 保護者へのUD啓発」について、実績が△となっているが、内容が分かりやすく面白いものになれば参加者は増えるのではないかと思う。

また、誰もが暮らしやすいまちづくりについて等、楽しい漫画のようなものを作成すれば、子供たちにより興味を持ってユニバーサルデザインを学んでもらえるのではないか。

(事務局)

「No. 8 保護者へのUD啓発」の実績低下の要因として「UD絵本ワークショップ」が台風により中止となったことが挙げられる。参加予定であった23人を加えると大幅には減少していない。

また、事業の楽しさについては、例えば、昨年度から実施している「ピクトグラム選手権」は子供たちに楽しみながらユニバーサルデザインに興味を持ってもらえる契機となる事業であると思うため、そのような取組を今後も行っていきたい。

(倉橋委員)

「No. 4 多様性理解のための教育」は数値的に評価が○となっているが、実際に子供たちと対峙した身としては◎でよいのではないかと思う。福祉教育の無かった昔は、障がい者である私を見ると真似をするような子供が多かったが、現在は違う。転んでしまった時などは大丈夫かどうか気を遣ってくれる。評価の仕方は難しいが、数値だけでなく、学校、教育委員会、障がい者等の様々な経験を通じた、実感としての評価もできるとよい。これは福祉に関する評価においても同じことである。

(事務局)

ユニバーサルデザインの学習は、多くは小学4年生と中学1年生で取り入れられている。「No. 4 多様性理解のための教育」について、小学校は97校中93校、中学校は49校中29校で実施となっているが、学校数だけの実施率で100%を求めるのは非常に難しい。次期計画では、希望学校への派遣率や満足度等を指標として取り入れていくことを検討したい。

(吉林委員)

「No. 22 女性活躍支援事業」及び「No. 23 地域で活躍する女性育成講座」について、女性の活躍は当然に重要なことであるが、実績が片や◎、片や△とアンバランスになっている。両事業、講座の趣旨が違うかとは思いますが、事業目標を合体させてもよいのではないか。

「No. 30 分かりやすい案内サインの設置」について、私自身、浜松駅周辺をユニバーサルデザインの感覚で歩いてみたことがある。その時、植木で埋もれていたり、斜めになっていたり、字が不鮮明だったりする案内サイン等が多く見られた。せっかくの親切な案内もそのような状況であると残念なことになってしまう。その辺りに関して見回り等、フォローはしているのか。

(事務局)

「No. 22 女性活躍支援事業」は年5回開催しており、そのうち参加者が一番多かった回の人数を実績として記載しているが、これでは全体の参加率等が分からず、比較ができないため、指標及び記載の仕方を考え直す必要がある。また、設定した目標人数に達していればそれでよいということではないため、次期計画では、例え

ば、どれだけの人のキャリアアップに繋がったのか等の中身も重視した指標を設定していきたい。

「No. 30 わかりやすい案内サインの設置」については、浜名湖周辺の案内サインの整備をしていくものである。市外から来た方は、雄踏街道等の街道名ではどの道かよく分からない場合が多いため、各街道に統一した番号を振ることで分かりやすくする取組である。

設置した案内サインの維持管理のためのパトロールは定期的を実施しているほか、道路等については、市の職員だけでは把握しきれない情報を市民から写真を添えて発信してもらおうアプリが存在する。案内表示等についても、修繕等が必要な箇所があれば情報提供いただければ、担当課に伝えさせていただく。

(安田委員)

実績が低下した事業等については、理由説明がしっかりとなされており、疑問が解消された。

実施内容について、詳細に記載してほしいというのは私も同意である。しかし、全てが丁寧に記載してあると文量や厚み等の問題が生じるため、例えば、減少している部分についてのみボリュームを設けることなどが必要である。実績を照会する中で、丁寧に記載してくる課もあるとは思いますが、主管課の権限で省略してもよいと思う。

(太田委員)

「No. 22 女性活躍支援事業」は、結婚や出産によって働き続けることが難しい女性の活躍を支援するもの、「No. 23 地域で活躍する女性育成講座」は、仕事を終えて余裕が出た方たちの意欲的な行動を支援する事業であると解説したが、結婚、出産することで仕事の意欲を無くす女性が多いことを不安に思う。私も浜松商工会議所の女性会に所属しているが、結婚しても、出産しても、心豊かに働けるような浜松であってほしい。また、60歳代以上で意欲的に活動したい女性はもっと存在すると思うが、実績を見ると人数が少ないように感じた。

(松井委員)

「No. 40 SNS等を活用したUD情報発信」について、発信すれば◎というのは評価点としてどうなのか。1回でも発信すれば◎なのか。実施内容の評価点を検討していただきたい。

(事務局)

平成30年度と比較して発信回数は4分の1となっている。平成30年度は毎日発信をしていたが、UDにあまり関係のない投稿も見られたほか、内容の重複も多かったため、令和元年度からは内容の精査を目的に週1回の発信とした。Facebookを始める前は発信することに重きを置いたのだろうが、その後の評価としては、内

容がどのぐらい伝わったか等の効果にシフトしていく必要があるため、次期計画では指標を検討したい。

(石塚委員)

観光に関する事業である「No. 29 ユニバーサルツーリズム受入環境整備」及び「No. 39 地域のUD情報等発信」は2つとも◎で安心している。中身を見ていくと、5年間の中での情報発信の質が変わってきており、例えば、駅前の看板だけでなくスマートフォンで情報を確認して移動する人が増えてきているほか、観光客が増加しているにも関わらず、インフォメーションセンターの利用客は減少傾向にある。指標が5年間の計画の中で固定的であるのは、やむを得ない事ではあるが、その中で見方を変えていくことも必要である。

また、令和2年度の実績は新型コロナウイルス感染症の影響で激減することが予想されるため、なおさら量ではなく質を見ると同時に、新しい生活様式の観点からの評価を入れていく必要があるのではないか。

(伊豆会長)

審議事項の内容について、来年度以降、報告の記載に工夫をするという条件付きで承認する。

8 その他

- (1) 八幡駅周辺バリアフリー基本構想について
- (2) UDトークの活用事例について

事務局より

(資料5) 八幡駅周辺バリアフリー基本構想について (経過報告)

(資料6) 市長記者会見のライブ中継及び字幕配信について

について説明。

9 閉会